

# 湯中央新聞

發行日(不定) 每月三回  
 編輯印刷 小松彌八  
 兼發行人 小松彌八  
 福島縣石城郡湯本町字湯本  
 字三國四十六番地  
 發行所 湯本中央新聞社  
 紙代一部五錢(月十錢郵稅共)  
 廣告料五錢(二字一錢) 一行十五錢

## 新年之辭

回春之御慶芽出度御祝ひ申目にする傾向にある爲め自ず。然金廻りが不如意となりま即ち使われに生れて来た金上げます。先以愛讀者皆様の御幸福をす従つて愈々不景氣は深刻其のもの金庫の奥に仕舞い御祈りします。次に本紙も昨年十月孤々の相嘗信用出来得るもの亦はん上等の衣類も筆筒の中に聲を上げまして茲に初めての御正月を迎へました。くは相用の擔保存あるもの肥しです。願みれば其間幾多の難關にには來る可く目一杯に融資斯く云ふ所に矛盾した政策逢ひましたが幸ひ親愛なる貨付けをして流通資金の富が多くある爲め世の中が皆様の御懇篤なる御援助を裕を圖り以て産業の發達にまならないものになり勝ちで賜りまして恙く迎春の賀齡勉めなければ必ずや景氣はす乃ち物事總てを有意義にを重ね得ました事を衷心か晚回し仍て地方の産業の進活用せよ必用のないものはら御禮を申し上げます。展を見得らるゝこと勿論併造るな金持ちは有つても無時今緊縮治下に生存する我て失業も自然救済し得るくつても良い自動車や寶石等國民として華美なる迎新ことを疑わないのでありま類や別荘や妾等を造る金がの意を表する事は謹んで御す、金は天下の廻り持ちで在つたら無利息で資金を融遠慮申上げ甚た質素恐入りあります金持ちが獨り握り通して下さい而して國家のますが爰に單なる赤誠を以潰して居ては其金にカビが眞の經濟を考へて下さい。て年始の御祝詞を述ぶる次第であります。生へるばかりで決して國家以上記者の緊縮案の一筆を却説我が國の問題であつたして憚らざるものでありま致します。金解禁もいよゝ實行せら。社會の爲めならぬと推斷述べまして緊縮新年の辭とれたので記者は正に景氣が乞ふ金持諸君よ此の意味に於て景氣回復策の一助とし直る事請合ひと思ひます。要するに銀行始め多くの金て須く權利融資の御勇斷あ持ちは可成貸し出しを控へらむ事を望む所以であります。

昭和庚午五年  
 壹月元旦

(磐山生)

## 謹奉賀新年

家中揃つて

健康で

親切で

品扱を可憐に

仲善く

ゆ快に

精一ハイ働かう

東郷襖一手販賣... 値段が安くて... 丈夫... 無類

各國自轉車販賣

建築請負

氷問屋

高崎屋商店

電話一〇一番

青木齒科醫院  
 湯本町  
 川

湯本信用無盡株式會社  
 電話四〇一七番

# 石城民政二つに分裂

## 未曾有の大混亂

### 幹事長と副會長の本家争ひ

豫て報せられつゝ有りたるより押掛けたるも遂に入場  
 如く若松對野崎間の内紛いするを得ず幹部のみ入場す  
 よく表現化し去る廿五日べく湯本の同志の内約五十  
 豫戦會に於て俄然正面衝突を演じたり

最近縣參事問題ヨリ若松派野  
 崎派ト別名ノ争ヒ頻リニ宣  
 傳サレツ、アツタル所廿五  
 日ノ豫選會ヨリ比佐派野崎  
 派ト改稱スルニ至ル

野崎派は其野心を愈々露骨  
 に現し廿五日の豫選會は自  
 派の猛者多數を以て會場を  
 占領し其野望を貫徹せんと  
 窃かに計畫中とか風評あり  
 たるを比佐派に於て擦聞し  
 俄かに此の陣容を突き破る  
 べく緊急秘密會を開き各部  
 と打合せを遂げたるものゝ  
 如く廿四日下り終列車にて  
 勿來植田方面より約百名廿  
 五下り準急にて湯本玉川  
 警崎上遠野入遠野方面より  
 約百五十名が俱樂部に押掛  
 けたる所野崎派は早くも好  
 問方面より約二十三名の壯  
 士戰陣を整へ平然と構へ居  
 たるも叙上の如く多數の團  
 体の爲めさしもの壯士連も  
 呆然たるの觀あり夫より内  
 郷赤井神谷四倉其他各方向  
 より自動車又は汽車にて刻  
 々同志乘集階上階下滿場立  
 錐の余地なく凡そ五六百名  
 を算したり一方野崎派は跡

右の結果直ちに各方面へ打  
 電して以上の通知を發す同  
 時に野崎派の先手を打つべ  
 く午後一時五分平發にて福  
 島支部に向け委員十一名は  
 出發せり

野崎派に於ては發會中比  
 佐昌平氏及萩原義雄氏を大  
 に批難するの演説をなし而  
 して役員改選を行ひ民政然  
 るに野崎派は又應援隊と  
 堂石城支部は副會長の主權  
 する有聲座組が本家なりと  
 自唱し俱樂部にかまわず左  
 藏氏を候補者に推薦し空席  
 の通り予選會を進め野崎滿  
 七分の滿場一致拍手滿座は  
 決定す、當野崎派の選任せ  
 役員左記の通り

會長 漆畑元吉氏  
 副會長 若松美三氏  
 幹事長 山野邊義政氏  
 副幹事長 山野邊義政氏

# 石城政友會部會の陣容

全部會にては御大木村氏を二割強に  
 來郷と共に着々其準備に忙  
 殺されつゝありて就中總裁  
 犬養氏の名を以て囑託狀一  
 萬枚を各所に送達し、いよ  
 々々戦法を改革し飽迄必勝  
 を期すべく猛運動中なり

湯本町も  
 貸家續々値下  
 比佐賢司氏  
 湯本町上町所有貸家二軒を  
 いの一番に値下の模範を示  
 し他も引續き値下

湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒

# 貸家案内

湯本町上町所有貸家二軒を  
 いの一番に値下の模範を示  
 し他も引續き値下

湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒  
 湯本町實海川向 一軒

# 社告

新年號が後れましてすみ  
 ません御承知の通り旬刊新  
 聞は回数に制限あります  
 實は議會解散を予知したた  
 め種々考慮の結果今日迄延  
 期した次第でありますから  
 不惡御諒解を願います  
 追白 講讀料として前金  
 に申受たる分は先に繰  
 越す事に致します甚だ  
 恐入ります左様に御  
 承知を願ひます  
 警山敬白

# 入山揭示

二月分……公休及び賃金  
 支拂日、糧食証明左の通り  
 公休日 五日 十六日  
 二十一日 賃金支拂日糧  
 食証明日は従前の通り

# 名やぶそば

今般左記に於て美味やぶそ  
 ばを開業して居ります、何  
 卒多少に拘不御ひいき御用  
 命の程伏て御願致します  
 特製切切ざるそばト  
 別製玉子入り松の月ハ  
 手前獨特自慢の調理に付き  
 ゼヒ御試食の程を

# 第二松の月

湯本町横町  
 主 佐藤豊次 敬白

# 祝發展

警崎村々會議員

- 鈴木辰之助
- 藤田善吉
- 久田克位
- 北郷秀之助
- 高木源八
- 小畑寅之助
- 柴田彦次郎
- 四家秀行
- 瀧 徳也
- 大井川十郎
- 木田周平
- 大平佐久馬
- 箱崎權十郎
- 芳賀松次郎
- 佐藤助太郎
- 酒井嘉七
- 小野右京
- 野木左内
- 里見衆吉
- 會田政次郎
- 野木巳之助
- 若松總太郎
- 白石猶藏
- 渡邊豊介

# 石城郡銀行組合

三井礦山株式會社  
 一條一雄  
 藤原社宅

# 杉山炭礦々業所

白 水  
 礦主 杉山今朝雄

# 五十嵐炭礦不動澤礦業所

小名濱町長  
 鈴木榮

# 吉田亀之助

小名濱町會議員  
 小名濱長太郎

# 小名濱二業組合

組合長 小松作太郎  
 ◎親切第一主義◎  
 坂本家畜醫院 往診迅速  
 本院 小名濱町字仲町  
 分院 久之濱町字南町

湯本料理屋組合  
 湯本茶屋組合

湯本海上運送火災保險株式會社代理店  
 吉田恭平

入山探炭株式會社

# ガスばく発の爲め 入山採炭會社の 悲惨事死傷者十二名を出す

石城郡湯本町入山採炭株式臨時會社  
會社第四坑南排氣坑に於て電工 樋口義伊(三三)  
二十五日午後十二時四十分入山病院入院中二十七日上午  
大音響と共にガス爆發し作后までに死亡したるもの左  
業中の坑夫並に職工十名はの如し

重傷を負ひ技手補給木秀  
義氏(四〇)外坑内機械係運轉  
手菅野重雄の兩名は間もなく  
死亡した、原因は同所は  
水浸中のところ採炭に着手  
するため本月初旬よりポン  
プ座を設け排水作業中の所  
でガスの發生した事なき個  
所である。従業員は何れも  
炭酸ガスの注意をしてゐた  
がメタンガスの警戒不十分  
のため従業員が持つたカン  
テラの火が燃え移つたために  
此の慘事を惹起したもので  
ある現場は地下四百尺余の  
坑口から千五百間の個所  
あると今回の慘事に付ては  
會社側でも被害者に対して  
は出來得る限りの見舞金を  
贈與して慰安をする目下其  
相談中である。

## 重傷傷者氏名

- 坑内雇 佐々木一郎(三七)
- 修繕工手 伊藤留之進(三三)
- 支柱夫 木戸三次郎(四〇)
- 運轉手 樋口甚内(三五)
- 機械工手半澤彦右門(三九)
- 支柱夫 山下作市(三六)
- 機械係 佐川則正(一九)
- 運轉手 笠原源四郎(二四)

## 鶴の湯の由來



鶴の湯主人大木平四郎氏

常磐線湯本驛、入山採炭の  
全盛になる前東北屈指の  
湯の街であつた、湯の歴史  
も日本有数の古さだ、傳ふ  
處では人皇十二代景行天皇  
の朝陸奥の東夷がさかんに  
騒ぎ立てたので近江國日野  
郷の岩那、磯那の兩人が討  
賊の命を奉じ東下した、湯  
本へ差かゝつた時、一羽の

丹頂鶴が南方から飛來しあ温泉の開始者で鶴の傷口を  
わたゞしく林中舞ひ下つた洗つた本湯を鶴の湯と名づ  
け何事ならんと來て見れば夷  
賊の流矢で負傷した鶴がし



現在の鶴の湯

## 短篇笑話

入智恵

與太「伯父さんオイヤの  
顔赤いかる  
伯父「ウン赤いなドウし  
た  
與「オイヤ酒粕喰つた  
伯「馬鹿……酒粕喰つ  
たナンテ言わんで酒呑  
ダツて言へ  
きりに傷口を湯にひたして  
ゐたので二人は親切に傷口  
を洗つてやると一週間程で  
全快した、それから三週間  
の後、どこからともなく素  
稻粟と一巻の神書を授け  
て去つた、禮書を開て見  
ると佐波古の温泉はいや  
しくも御神の造りたまふ  
たもので、なんぢ等この  
地を開き快く天壽を全ふ  
し住民の生存を扶翼せよ  
とあつたので、兩人意を  
合し温泉の近くに草屋を  
築き草林を開拓して稻粟を  
作したといふ、兩人は湯本  
の顔赤いかる  
八「オ、赤いなドウシ  
八「オイヤ酒呑んだ  
八「生意氣だナ此野郎イ  
クラのんだ  
與「此位な湯のみでニツ  
八「馬鹿野郎酒粕喰つた  
ナ  
與「伯父さん聞いてたね

八「聞ナクツタテ手前のツ  
ラに書いてら……アア  
、モオ落チタ、コンド聞  
かれたら二杯でサウ言へ  
よ「ばアやオレの顔赤いか  
いオイヤ酒のんだ  
ば「ヘエ大へんナ元氣ネど  
の位んダネ  
よ「湯のみに二杯喰ツタ  
ば「マアいやダヨ此人は酒  
粕を食べたのだらう  
よ「ばアやモ知つてゐるの  
かい  
ば「知らなくつてサおまへ  
のホツベタにチャンと書い  
てあるよマア呆れたねだれ  
が入智恵したんだエ  
よ「伯父さんヨ  
ば「フロントニノ氣だよ此  
兒はコンドハ二杯のんだつ  
てソウ言ひな  
よ「與サン顔赤いダロオイヤ  
酒のんだ湯のみに二杯  
のんだ……  
與「アラマアへんでこネー  
誰かのましタノ  
よ「ウム内の爺やダ  
與「シヨガナイネひやでの  
んダカイ温めてのんだかい  
よ「ウンニヤア焼いて食ッ  
タ  
△笑話一口話募集  
登載分に薄謝呈

<p>高藏寺住職 <b>木村照龍</b> 植田町字高倉</p>	<p>勝行院住職 <b>楠正隆</b> 湯本上町</p>	<p>總善寺住職 <b>森文雄</b> 湯本表町</p>	<p>湯本町勉強旅館 <b>松柏館</b> 電話五番</p>	<p><b>山形屋</b> 電話四番</p>	<p><b>大龍館</b> 電話三二番</p>	<p><b>常陸館</b> 電話四九番</p>	<p><b>勇屋</b> 電話四四番</p>	<p>職業紹營業 <b>山本健次郎</b> 湯本上町</p>	<p><b>木村仁吉</b> 湯本上町</p>	<p><b>渡邊茂雄</b> 湯本上町</p>	<p><b>石川八郎</b> 湯本上町</p>				
<p>上遠野荷馬車組合 組頭 <b>久保田一之助</b> 上遠野村字本町</p>	<p>御料理 仕出し うどん 生そば 賀澤 湯本表町電話十八番</p>	<p><b>濱松屋</b></p>	<p>最上味噌醬油 配達は迅速にいたします 製造元 <b>大倉屋商店</b> 湯本裏町</p>	<p>白米酒類 <b>ニッコく支店</b> 湯本裏町</p>	<p>うどんそば酒さかな <b>ニッコく本店</b> 湯本座前</p>	<p>學校用品 日用雜貨 賣藥 <b>上川商店</b> 湯本上町</p>	<p>印伴天名人前掛萬祝類 名入手拭 <b>堀越染工場</b> 場主 堀越善六 電話七番呼出 磐城小名濱町定西</p>	<p>毛皮類 水野本店 <b>水野一作</b> 石城郡上遠野村</p>	<p>諸車農具新造修繕 サンソ付應用 堅牢にして体裁優美 本年よりは特別に勉強 <b>那須理吉商店</b> 湯本町石畑通り</p>	<p>產婆 <b>山崎鶴子</b> 湯本上町</p>	<p>全荒コン 全裏町武藏屋裏</p>	<p>新古洋服 洋物其他各種 <b>岡田金五郎商店</b> 湯本上町</p>	<p>九頭見パン製造本家 和洋菓子卸小賣 <b>九頭見菓子店</b> 九頭見 清市 湯本上町電話十六番</p>	<p>電氣器具、ラジオ部分品 ラジオ組立修繕 <b>内山電氣商會</b> 内山吉之助 湯本上町</p>	<p>ウント大勉強致します <b>奥山履物店</b> 湯本表町</p>

旅館料理屋組合  
湯本お茶屋組合  
組合長 吉田 恭平  
神戸海上運送火災保險株式會社代理店  
吉田屋 吉田 恭平  
本横町 電話五二番

# 入山採炭株式會社

湯本鑛業所(電話三三番)

前衆議院議員

比佐昌平  
木村清治

縣會議員

鷺清昇  
野崎滿三  
鈴木辰三郎  
古川傳一  
山崎吉平  
若松美三

植田水力電氣株式會社

金成通

石城郡錦村

湯本町長

小泉三代喜

湯本校長

前川三省

湯本郵便局長

鯨岡潔

湯本消防組頭

井坂千代松

湯本町會議員

木村德三郎  
鯨岡愿道  
比佐源造  
松繁庄一  
鬼澤八百松  
宮本利一郎  
大和田主馬造  
比佐賢司  
石川德壽  
小井戸大次  
鯨岡賢司  
若松孝平  
渡邊長作  
矢吹佐市  
小野福二郎  
上川才松  
矢吹莊司  
村上六平

入山立國勞動自治會

會長 松繁庄一

矢吹自動車運輸部

矢吹莊司  
從業員一同  
湯本町水ノ谷

石城郡第一區  
石城郡第二區  
石城郡第三區  
石城郡第四區  
小學校長組合

平町會議員一同

平町木材商業組合一同

平町藝者屋組合一同

東部電力株式會社

平營業所

四ツ倉銀行組合

湯本區會議員

生田目嘉清  
須藤熊雄  
若松孝平  
若松修一  
高橋勇五郎  
西原末吉  
佐藤德兵衛  
渡邊渡  
御代富彌  
後藤利吉郎  
金成嘉吉  
鯨岡誠祐  
矢吹莊司  
村上六平  
小頭  
鯨岡賢司  
白石猶藏  
九頭見清市  
若松幸三  
赤津清五郎  
小井戸庄松  
金子庄兵衛  
佐藤貢  
鈴木道太郎  
坂本一  
永山善彌  
箱崎幸平  
橋本春吉  
山口保

湯本在郷軍人分會  
陸軍豫備少尉  
正八位富樫勝秀

湯本青年訓練教官  
陸軍豫備少尉  
正八位草野友親

湯本運送株式會社  
社長 長岡義守

湯本消防組  
井坂千代松  
顧問 渡邊長作

若松利惣次  
若松修助

特別大勉強◎  
建具職

鈴木末太

湯本横町

大入御禮

湯本座

座主 青木兼次郎

大入御禮

三函座

座主 白石初太郎

青木齒科醫院  
湯本信用無盡株式會社

新衣類古洋服  
小供和洋服仕立物  
ウスキネ販賣

### 中島商店

中島仲次郎  
湯本横町

### 會田整骨院

湯本町學校通り

### 金子西洋洗濯店

湯本町成田山下

### 渡邊表具店

湯本表町横町

### カフエー

### 小乃家本店

### 小乃家支店

湯本横町  
上町

### ニカスケツト

### 湯本支店

湯本座前

鋸製造販賣問屋

### 竹田儀平

平六丁目

針術専門醫  
諸病に効あり  
貧困者には治療半額若く  
は無料  
福島訓盲院出身

### 有田

湯本上町

吳服太物古洋服

### 質商若松忠兵衛

湯本町上町

湯本町の名物男  
片寄金作氏

湯本の名物男新富士屋片寄  
金作氏は從來裏町に於て奮  
闘努力賣大に勉勵中の所今  
般シヨ玉〇印を貯め込み湯  
本座前に理想の店舗を新築

移轉開業益々業務擴張せり  
因に至る所不景氣風に襲わ  
れ閉店夜逃喰込み轉業等の  
事實を見聞きしつゝあるに  
今日片寄君の如きは立志傳  
中の人として郷土に誇るに  
足る勤勉家として賞賛に價  
する人である。今後尙大に  
勉強廉價販賣顧客本意に親  
切第一と氏獨特のヒョウキ  
ン者を賣り物に良品多賣を  
旨とする由に付未來はホラ  
成金の君をいろは四十八戸  
前も建てる事であらふ  
電話三十七番

### 大平菊次郎

湯本石畑

牛乳の御用は  
牛乳商  
衛生に注意し配達も迅  
速に致します

### ◎移轉廣告◎

現在 平町十五丁目十二番  
地二十三夜様前通り  
警察署前

代書業佐々木庸二

從來紺屋町に開業中の御厚  
情を謝す此後相變らず御  
引立を祈上候

先づ經濟は燃料の文化  
木炭コークスの代用品

地方特大倉煉炭湯本工場  
石炭木炭問屋  
專賣大倉乾留練炭特約店

### 山崎武賴商店

和合屋  
常磐線湯本町

有隣生命保險株式會社  
國華徵兵保險株式會社  
帝國火災保險株式會社

### 鈴木稻實商店

代理店  
湯本町 電話三一三番  
保險主任 大山經義

### 大山經義

各種自動車部分品附屬品並ニ修繕ノ御用ハ

### MILLER TIRES



### 平サービステーション

平町驛前 電話六一二番

### 伊藤パン總本家

東洋第一の伊藤パン總本家  
四ツ倉町立身 佐藤一二

伊藤製麵麩所  
外店員百名 東京市本所龜澤町二ノ六  
電話黒田74九十八番

### 良品廉賣に勝る商略なし

磐城セメント會社特約店

### 和洋銅鐵 釜屋商店

金物問屋 釜屋商店  
磐城平 電話九番 一三九番

確實敏捷は釜屋の生命なり